

大会参加報告

第45回 日本クラブユースサッカー選手権(U-18) 大会参加報告

サッカー2級審判員：中村 豪

はじめに、ユースカテゴリーのトップレベルの大会に参加させていただき本当にありがとうございます。

兵庫県サッカー協会、そして研修や試合会場でお世話になった群馬県サッカー協会、大会関係者の方々に御礼申し上げます。ありがとうございました。

地域2級強化審判員として7月24日(土)から7月28日(水)まで参加したご報告をさせていただきます。

事前研修会：オンラインZOOM

大会期間前の各90分間3日間において、大会目的・意義・2021/22競技規則改正・映像研修、及びグループディスカッション（審判員4~5名+審判インストラクター1名）が行われました。事前研修会の目的は「大会が成功するために大会の概要の理解とともに、出場する選手やチームの目指すことを押さえながら求められるレフェリングが何かを掴むこと」とされました。森保監督(日本代表)の「一緒に試合を作るレフェリーを育てて欲しい」というメッセージとともに、JFAが本大会を育成ではなく『強化』と位置付けるその試合を任される審判員としての責任の重さと喜びを体感しました。



映像研修では、試合中と同様にサッカーや競技規則の知見に加えて「シンプル・ショート・クリア」に自身の見解を伝えることが重要でした。ポイントは話し方であると考え、「結論→理由」を15秒程度で話すことを意識していました。

映像研修よりヘディングの競り合いにおいて、踏み切る位置やアプローチ方法を見極めることで上に乗っかろうとする選手の狙いを知ることが出来るという意見はこれまでの私の言わば「引き出し」には無かったものでした。

写真①：2021/7/13 映像研修：ヘディングの競り合い



2021/22 競技規則改正「ハンドについて」

私にとって今大会が改正された競技規則を適用する最初の大会でした。1)手や腕にボールが当たったとしてもその全てが反則になる訳ではないこと、2)手や腕が体を不自然に大きくする位置にあるかについて手や腕の位置が妥当か受け入れられるか理解できるかを主審が判定すること、の上記2点を踏まえて、“主審の主観に委ねられる領域”を理由と説得力を持って判定できるように整理して試合に臨みました。

担当した試合について

7月25日(日) Group 第1節 伊勢崎商業高校グラウンド

大宮アルディージャU-18 対 ジュビロ磐田U-18 担当：主審



試合前日、審判割当表を見て主審割当が決まったことに一気に気持ちが高まりました。試合当日、無観客開催でしたが、会場の雰囲気は飲まれることなく試合に入ることが出来ました。

後半35分+1分、スコア2-2の状況で、PA内のハンドの反則による得点の阻止がありました。しっかりと判定することが出来ました。

試合を振り返っての反省点は、足を高く上げる選手とそのボールを頭でプレーしようとする選手のプレーについて接触が無かったとしても主審が「プレーヤー目線」に立って、選手が相手にそのプレーを続けられるとどんな気持ちになるのかを想像して見る必要があります。そこも考慮して判定すべきでした。当日の70分は本当にあっという間に時間が経過しましたが、副審・4thのサポートもあり無事に試合を終えることが出来ました。

7月26日(月) Group 第2節 富士見総合グラウンド

清水エスパルスU-18 対 モンテディオ山形U-18 担当：主審

試合前日、清水エスパルスの試合を担当した審判員から競技力が非常に高いという情報が共有されていました。

試合では、前日の反省点を活かすことを念頭に、素早く両チームの戦術を掴むことが出来ました。一方で、判定面において競技力・フィジカルで上回る清水のアプローチやフィジカルコンタクトをどのように見極めるか、常に考えさせられる試合でもありました。



大会参加前の事前シートでも記載したのですが、選手が倒れたからといって、簡単にファウルにせず、フェアなコンタクトでチャレンジするプレーを認めていくことは「強化」という側面からとても重要だと考えています。しかし、アンフェアなプレー、危険なプレーは認めるべきではありません。これらプレーのどこで「反則である」と線を引くのか、今後も審判員として考え抜く必要性を感じました。

また、試合中にタッチジャッジで審判団の信頼を失いかけるシーンがありました。審判員4人、もしくは3人の持つ結論が異なってしまった場合「正解の判定」は主審、副審、第4の審判員の誰が持っているのか、それを知る術は何か、そしてどのように正解へと導くのか、時には「ごめんね」と判定を変更する柔軟性や試合全体を常に感じる力がさらに必要であると感じました。

7月28日(水) Group 第3節 群馬自動車大学校グラウンド

東京ヴェルディU-18 対 アビスパ福岡U-18 担当：副審1



この試合のテーマは「基本に忠実に取り組むこと」でした。試合結果を記録すること、時間を正しく計ること、オフサイドラインをキープすること、タッチアウト後の再開を正しく行うこと…など、審判員としての当たり前を当たり前に実行することの重要性とその方法を前日の振り返りMTGにおいて審判INSの泉さんよりご指導頂きました。

試合後、ADVの必要の有無について審判団で話し合いました。反則が起きた状況、強度に加えて、ファウルを受けたチームの戦術やプレー狙いまで考慮して、ADVを適用すべき、という結論でした。

世界のトップレフェリーが担当する試合を見ると、反則が起きてもかなりの間を取るケースも見られます。早く笛を吹くシーン/選手のプレー続行の意思を感じながら間を取るシーン、特に審判員のセンスや余裕が表れる場面だと思いました。

大会全体を振り返って

この度は、初めて全国大会に審判員として参加させて頂き、主審・副審を経験させて頂きました。本当にありがとうございました。感染症対策の観点から、長時間の研修や会話は行えませんでした。他地域の強化審判員や審判インストラクターの方々との交流をし、それぞれの考えやサッカーに向き合う姿勢に触れることが出来、非常に勉強になりました。

また、関西で活動する環境がいかに充実しているのかなど、改めて感じる事が出来ました。この5日間での経験を糧に、さらに地域での審判活動に注力したいと考えております。今年、8/13(金)から8/18(水)まで福井県でのインターハイに参加させて頂きます。そこでも更なる学びや経験を得たいと考えております。

最後になりましたが、群馬県サッカー協会の方々非常に世話になりました。そして審判活動をスタートするきっかけになった山本委員長を始め、兵庫県サッカー協会審判委員会、関係者の方々にお礼を申し上げます。

本当にありがとうございました。